

鉄道旅行研究部 活動報告

令和7年8月5日(金) 全国高校鉄研交流会(兵庫大会)

1. 目的

関西圏の高校生と共に意見交換・^{どうき}討議を行いながら、鉄道についての理解を深め、新しい発見につなげる。

2. 旅程

交流会の内容

アイス ブレイク	雲雀丘学園 鉄道研究部の展示見学
講演 1	阪急電鉄株式会社 公式 YouTube チャンネル 【阪急電車ファン全員集合!】 阪急電車館の藤田館長と阪急電鉄 社員さんとのクロストーク テーマ 「旧車両についておよび 阪神淡路大震災時の状況」
講演 2	近畿車輛株式会社 設計室社員さん テーマ 「鉄道車両の設計について」
活動紹介	各学校の活動紹介
交流会	1. SL清掃作業 2. 討論会 (SLの今後について)
表彰	全国高校鉄研合同写真展※2

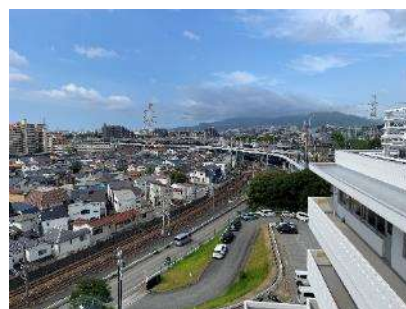
3. 本文

兵庫県に所在する^{ひばりがおか}雲雀丘学園中学校・高等学校において、主に関東圏および関西圏の鉄道系・交通系の部活動が一堂に会し、交流を深める「全国高等学校鉄道研究交流会（全国高校鉄研交流会）」が開催された。当部も、昨年の静岡大会に引き続き参加した。

雲雀丘学園は、阪急宝塚線・雲雀丘花屋敷駅から平井車庫の入出庫線に沿って位置しており、校舎からは常に阪急電車の走行を望むことができた。特に校舎の最上階からは、平井車庫を一望できるほか、JR 宝塚線の列車も眺めることができた。



校門と阪急電車



校舎から望む阪急電車と JR 宝塚線

第1講演では、阪急電車の元運転士であり、現在は阪急電車公式 YouTube チャンネルで活躍されている阪急電車館 藤田館長と、阪急電車のベテラン社員さんによるクロストークが行われた。

講演では、阪急の旧型車両の紹介や、阪神・淡路大震災当時の鉄道社員としての経験を語られた。旧型車両の紹介では、写真や手作りの模型を用いて、視覚的にもわかりやすく解説されていた。震災については、藤田館長がちょうど運転士として^{ひと}独り立ちする時期でもありながら、社員一丸となって全線復旧に尽力したという貴重な話を聞くことができた。



阪急電車館 藤田館長(写真掲載許諾済)

川崎市立 川崎総合科学高等学校 定時制 鉄道旅行研究部

第2講演は、大阪の鉄道車両メーカーである近畿車輛^{しやりやう}の設計室に所属する社員さんによるものであった。鉄道車両の製造工程について、実務経験に基づき、非常にわかりやすく説明をいただいた。

現在は台車の設計を担当されており、「台車の魅力をもっと知ってほしい」と熱意を持って語られた。ここでしか聞けない話も多く、全国高校鉄研交流会ならではの貴重な体験となった。



鉄道車両の設計についての講演

講演後は、各参加校による活動紹介が行われた。文化祭シーズンに近いこともあり、その準備や企画に関する紹介が多く、生徒同士の交流のきっかけとなる内容であった。

続いて、本格的な生徒同士の交流が始まった。最初の活動は、雲雀丘学園に静態保存されているSL「C56形111号機」の清掃である。展示は屋外であるが、四方を建物に囲まれ、屋根も設けられているため、保存状態は極めて良好であった。現役当時の検査票^{けんさひよう}も確認でき、今にも動き出しそうな姿であった。



SL C56 111 と サボの展示

- ※1：全国高等学校鉄道研究交流会
- ※2：全国高校鉄道研究部合同写真展

清掃活動後は、このSLを今後どのように活用していくかについて、生徒同士で意見交換を行った。「前照灯を点灯させたい」「汽笛を鳴らせるようにしたい」といった、創造的^{そうぞうてき}で興味深い^{きょうみぶか}意見が多く出され、今後の展開が楽しみである。



意見交換の様子



SL との記念写真

交流会の締めくくりとして、全国高校鉄研合同写真展^{ひようしやうしき}の表彰式^{とくひやうしう}が行われた。得票数の多かった作品の出展者には、阪急電鉄のオリジナルグッズが贈呈された。

その後、雲雀丘学園を後にし、阪急電車の大阪梅田駅で開催中の全国高校鉄研合同写真展を見学した。鉄道会社の改札内で写真展が開催されるというユニークな企画であり、非常に印象に残る体験であった。



阪急大阪梅田駅の写真展